

今週のメニュー

[トピックス](#)

PVC TODAY の記事から - フラクタル日よけが欧州で紹介される -

[随想](#)

4095mの高みへ！

- キナバル山@マレーシア登頂記 - (その2)

日本ビニル工業会 ストレッチフィルム部会 山本 達雄

[お知らせ](#)

建築・建材展2010 出展のご案内

[編集後記](#)

トピックス

PVC TODAY の記事から - フラクタル日よけが欧州で紹介される -

季節はずれの話で恐縮ですが、日本発のリサイクル製品が欧州で紹介されたというニュースです。

このメルマガや PVC ニュースでも紹介してきましたが、塩ビリサイクル材を使った“フラクタル日よけ”が欧州で取り上げられました。シェルピンスキー形状が天然の木の葉のように機能し、快適な日陰（木陰？）により地上温度がかなりさがったこと、塩ビは複雑な幾何学構造を作るのにも適し、耐久性があり、難燃性も高いことからこのような材料に最適であることが紹介されています。さらに、貴重な資源の有効利用を通じた新たなエコ効果を提供している点を、ドイツ語と英語で発行されている“PVC TODAY”は賞賛しています。

その他、“PVC TODAY”に掲載された話題を2, 3紹介します。

国内では、住宅版エコポイントが始まり、塩ビ業界としても塩ビ窓の普及を期待しているところですが、海外でも塩ビ窓が省エネルギーの面から評価されているという話題です。

ベルリンの13,000世帯の住宅地域の改修を行った建設会社が、「大規模住宅地域におけるエネルギー効率の近代化」のコンペでドイツ連邦大臣より金賞を受賞しました。この受賞には、塩ビ窓も省エネルギーの点で大きく貢献しているとのです。窓枠は、外の新鮮な空気と室内の空気の交換ができるような特殊な構造になっています。そして、熱の損失を抑えた換気システムと組み合わせることによ



て、建物全体のエネルギー効率を高め、CO2削減にも貢献できるというわけです。

ただ、日本で使われている一般的な塩ビ窓とは違い、3重の断熱ガラスが組み込まれており断熱性が非常に高い仕様となっています。日本との寒さの違いが感じられます。

建材といえば、塩ビ床材が医療施設などで役立っている例も紹介されています。

医療施設の床材に求められる機能は多々ありますが、衛生面での配慮もそのひとつではないでしょうか。その点、塩ビ床材は、立ち上げ工法という施工ができるため、床と壁との隙間がなく、バクテリアの繁殖を防げたり、消毒も容易であるという特徴があります。また、掃除やメンテナンスもし易く、ワックスがけのいらぬ清掃はより環境負荷をかけず、手間のかからないクリーニングが可能です。あのワックスがけのいやなおいからも開放されます。さらに、病院でも人の出入りの多い受付周辺などでは、それなりの耐摩耗性が要求されます。また、その見た目の美しさやデザイン性も大事ですが、それらの点でも塩ビ床材の評価が高いとのこと。

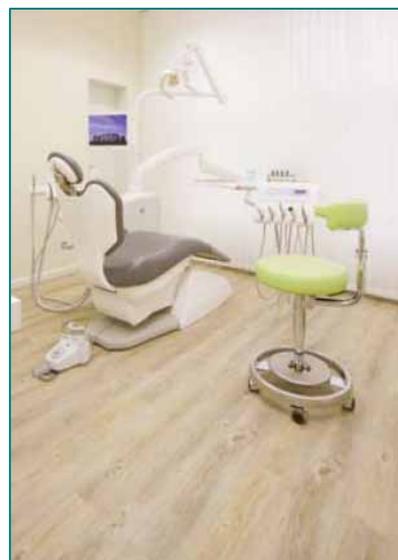
この塩ビ床材のデザイン性を活かしてすばらしい空間を作り出したドイツの歯科医院が、あるデザイン賞を受賞した話題も紹介されています。樫材風のデザインの施されたビニル床材は、重い治療用チェアに耐えられるばかりではなく、キャスター付きイスの音を和らげる効果もあるとのこと。もちろん、スリッパしにくく難燃性の点でも評価されています。

“PVC TODAY”ではその他にもユニークな塩ビ製品が紹介されています。興味のある方はこちらからどうぞご覧下さい。(了)

http://www.pvcplus.de/fileadmin/user_upload/starkeseite/PVC_today_autmn_EF.pdf



3重断熱ガラスの塩ビ窓断面



随想

4095mの高みへ！

- キナバル山@マレーシア登頂記 - (その2)

日本ビニル工業会 ストレッチフィルム部会 山本 達雄

- 二日目 ティンポホン登山ゲートからラバンラタ・レストハウス -

いよいよキナバル山への登山開始だ。コテージから少し下ったところにあるレストランで朝食を済ますと、標高1,866mのティンポホン登山ゲートに向かう。(登山ゲートは2つあり、下山時はもう一つの登山ゲートマシラウに下りる)。登山ゲートを通ずるにはパスポートの提示が必要。引き換えに、各人に氏名・登山開始日などが記入されたIDカードが手渡される。

また、登山者6名まではガイドを1名雇うことが義務付けられている。我々一行は、会員10名と、ジスコ・ボルネオ旅行社が解説案内人として就けてくれた、現地滞在暦20年という安間繁樹博士と同社現地案内人のジェームスさん（日本に留学経験あり、豚舎での作業に従事したが、帰国後は養豚業は宗教上受け要られ難いのでガイドに転進）の計12名。そのため登山ガイドは2名必要だ。そのかわり、登山ガイドは、ポーターの役も引き受けてくれるうえに、登山に不要な荷物は旅行社が別便にて下山口に運んでおいてくれるということで、私たちはサブザック一つという身軽さ。また、彼ら登山ガイドは、登山者の行動を管理する役割も負っている。



キナバル山登山ルート
(クリックで拡大)

現地人の雇用と旅行者の安全ならびに自然保護管理までを考えたこのシステムに加え、驚くことは、このキナバル登山のための登山客数を1日当たり146名以下にしていることだ。この146名という数は、山内にある宿泊施設のベッド数の合計とか。まさにエコツーリズムの教科書のような対応だ。

日本で富士山への入山者数を制限できるだろうか。今年の7月と8月の2ヶ月間の20万人超の入山者数からみても、環境をそのまま保持することはとてもできそうにない。世界自然遺産登録申請を躊躇させた原因の一つの糞尿臭を登山道から絶つことができるのだろうか。また、世界自然遺産に登録された屋久島も急ピッチで開発が進められ、観光客は年々増え続け環境への影響が心配される状況（内閣府調べ）とか。

ところで、この登山口からキナバル山頂までの標高差2,230m間の往復マラソンが実施され、その結果が事務所前に掲示されているが、なんと昨年の優勝者は2時間44分47秒、まさに鉄人。そして2位、3位は僅差で日本人だった。

Category	Name	Country	Time
MEN OPEN	DAVID BOO SHARON	JPN	02:44:47
	YUKI WAKABAI	JPN	02:46:00
	YOSHIOKI TAMAI	JPN	02:46:00
WOMEN OPEN	YUKI SHIMADA	JPN	03:00:00
	YUKI SHIMADA	JPN	03:00:00
	YUKI SHIMADA	JPN	03:00:00
MEN VETERAN	YUKI SHIMADA	JPN	03:00:00
	YUKI SHIMADA	JPN	03:00:00
	YUKI SHIMADA	JPN	03:00:00

キナバル山マラソン結果
(クリックで拡大)

キナバル山への登山道は整備されている。道幅も2m以上と広く、要所・要所にボルネオテツボク(ブリアン、ウリンともいう、比重1.1、生木では1.6)という極めて硬い木で作られた手すりや段々が登山者を守っている。釘も通らなく極めて硬く重いこれら木材で頂上まで装備した努力に脱帽。

さらに1時間程度ごとにポンドック(P:休憩所)が設置されており、それには水洗トイレが付置されている。水洗トイレといっても地下吸込み式であり、入山者が多くなれば生態への影響がでてくるかもしれないが、今のところ特にそれといった形跡は認められないようだ。

今回旅行のもう一つの目的は、熱帯雨林の生態観察ということであり、安間博士から目にした動物や植物に関する説明を受けながら登るので通常登山よりペースは緩やか。久しぶりに高山に登る小生にとっては理想的なペースである。

P.ロイとP.メンペニン周辺では、餌を求めてリス(ヤマスンドリス)やネズミ(クマネズミ)が寄ってくる。気温はだ



道端の花

いぶ低くなってきた、20 程度か。周辺の木々はシャクナゲのように樹高の低いものが多く、所々にランの種類と思われる花が咲いている。

P.ラヤンラヤンを過ぎるころから、道脇にウツボカズラが見られるようになってきた。手のひら大の大きさと色がきれい(ピロード・ウツボカズラ)。ウツボカズラは、土地の養分が低いところで養分補給を飛来するものに頼ることから、このような形体になったとか。周辺の樹木は、さらに低くなりハイマツのような感じのものが多い。

登山ゲートを9時に出発して6時間半後の15時30分、本日の宿のラバンラタ・レストハウスに到着。入山者はこのラバンラタ・レストハウスと周辺にある3棟の宿泊施設かサヤッサヤッ小屋のいずれかに宿泊することになっている。

ラバンラタ・レストハウスの定員は54名で、ベッドルーム、食堂、トイレ・シャワールームが完備している。といっても、シャワーは殆ど水温。2 - 3日すればホテルで温かい浴槽には入れるのでがまん我慢。それでも、結構冷水シャワーを浴びている人が多いのには驚き。日頃の習慣でこんなものと思っているのかもしれない。

食事はバイキング形式で品数は7 - 8品というところ。味はまーまーだが、やや脂質が高く当夜と翌日3食、次の日の朝食と合計5食も続くとチャーハンとスープ以外は食欲がなくなった。ただ、ウバ茶とコーヒーが飲み放題なのが有難い。

宿泊客は2泊を通して日本人客は我々を除くと殆ど見当たらない、ヨーロッパ系以外に韓国人客が目立っていた。

ベッドルームは2階にあり、二段式ベッドが5台と仮ベッドを1台入れて11名で使用。夜になると暖房も入り、日頃は夜間に2回くらい起きるのが、疲れも手伝い朝まで熟睡。
(つづく)

前回の「4095mの高みへ！ - キナバル山@マレーシア登頂記 - (その1)」は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/258/mag_258.pdf



ラバンラタ・レストハウス

お知らせ

建築・建材展2010 出展のご案内

住宅建材、店舗建材、ビル建材や設備機器など、建材・関連製品を紹介する総合展示会、建築・建材展が以下の通り開催されています。

塩ビ工業・環境協会は、「一般建材・関連製品ゾーン」に出展いたしました。

- ・日 時 : 2010年3月9日(火) ~ 3月12日(金)
10:00 ~ 17:00 (最終日のみ16:30終了)
- ・場 所 : 東京ビッグサイト 東5・6ホール (VEC小間番号: AC5016)
- ・主 催 : 日本経済新聞社
- ・入場料 : 当日一般 1,500円
- ・[建築・建材展2010](#)のホームページをご覧ください。

編集後記

先月末、オリンピックに津波のニュースが重なりました。津波警報が出た後、多くの方が避難し、鉄道、高速道路など交通機関も止まり大きな影響が出ました。結果的には津波は予報より小さく、気象庁に対し大クレームが出るのではないかと心配しましたが、マスクを含め全般に落ち着いた対応となりました。予報とはこんなものと思ったのか、そうでなければ津波の怖さを考えるとやむを得ないと考えたのでしょうか。それにしても地球の裏側から来るのに、スーパーコンピュータの時代でもまだ予測ができないんですね。(可)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp
